

## 教育会館ふれあいコンサート(2025年度会員募集)

### 身近で聴く生演奏の魅力

「心にしみる、すてきな演奏でした。美しい音色に涙が出ました」「楽器にはあまり触れ合う事のない人生でしたが、このふれあいコンサートを通して音楽の楽しさを70才にして知ったように思います」「ストラディバリウスの音の力強さに圧倒されました。まばたきももたないほどの超絶技巧の連続!!」これは12月に開催した徳永二男ヴァイオリンリサイタルの感想です。

演奏家たちからは、「この会場は近くで熱心に聴き楽しんでいる観客の様子が伝わってくるのでやりがいがあり好きです」「お客様があたたかく、素晴らしい音楽空間で幸せでした」との声をいただいています。マナーの良さや曲が終わり感動したときの大きな拍手は演奏家に伝わりよりすばらしい演奏を生みます。

生演奏は、演奏家と観客が空間や時間を共有するものであり、観客の反応に応じて演奏が変化するなどして演奏家と観客との共感が生まれます。演奏が終わった後、ときには一抹の不安を覚えることもあり、演奏家と観客の様子が気になります。会場が一体となり盛り上がりうれしそうな顔で帰る人を見送るときにはホッとします。

教育会館ふれあいコンサートは、7月に100回記念を迎えます。現在、「ふれあいコンサート」の名の通り、身近で演奏家とふれあい、家族や知人ともふれあい、市民が生音楽を楽しむ場となっています。今日まで続けてこられたのは、市民と演奏者や関係者などのご理解と協力によるものです。

しかし、昨今、教育会館ふれあいコンサートは、継続することが困難な状況になってきています。最も大きな要因は、コロナ禍もあり会員数が2017年146名、2018年141名、2019年106名、2020年82名、2024年86名と次第に減少し、事業の継続が難しくなってきています。このような状況そしてコロナ禍でも、教育会館ふれあいコンサートを楽しみにして新会員となってお出でいただいた方もたくさんいます。

今、教育会館ふれあいコンサートの継続と発展を図るため、会員数を増やす広報を強化しています。新しい年2025年度も魅力と実力を備えた演奏家(下記)に協力をいただきました。是非、会員となって生演奏の魅力を楽しんでいただきたいと思います。

第99回(6月1日)



加来 徹  
(バリトン)

第100回(7月13日)



高木凜々子  
(ヴァイオリン)

第101回(9月28日)



塚越 慎子  
(マリンバ)

第102回(11月30日)



山下 伶  
(クロマチックハーモニカ)